あうりくる世のふしぎを信じてもふ書の
心ばとはまるくふ代ふちもたびわかしを
さの恋ともしどかしあるまくのまさらあり
まるしさるとつくしおせ坂白居士を
むるし前の顔のやとりとる風流の書とのを
ものあるアイ西工伝しかしさくまるとふこふ
他諸とめて西きみ所ふものかく学んをし
さくらまつのうるしひをを名をしまるの

山を思ひやるに、あはれ月はうつろふの
山路をたどるとすれども、山もなほ越へ
がたきやうにもあるかな。孫は雲の門に入
四方の海人も名をあらそふ。ものとも
思ひあつめるに、ひとりぬるたもとをふ
笑ふてあまたの他の藤のくゆる物語し、集
いはんもおぼろ月のもの風景
と花谷のさとに十箱蓋をもてこそふる
おのく、ぼうり重つかくるものかとよ

文化丙寅冬
甕形著
雅淵

白雪屋士追善

俳諧之百韻

白雪菊

後の月かきくらして傘の秋　雄渕
きりぎりすなき半ば尾峰　北風
樫の志こまよりくき門口　波可
塗ぬれ乾くせうまの風　雷鳴
望もの出船をもう志ぐもう　北嵩

きつまの新ひる小草花葉ちる　鉾山
波ぬるもるる所のうるるふ　雷泊
つらくと志ぐしてのぶき志　六甲
行地とつけく雑草の名を　寫風
灯ともする鍋の湯ぬくるし　巾太
杉よつくりう窓するる井　明く
ぬくきにはるくしてきりて　越い
志ぐらるねこうのうるの　一風
足ぬるの蚤と過く海一やま　泊月

風節遠手尋ねもとふく
庫ふるこ家まとるこ言の有
物ちるなくこう義の物屠
所ふとを孫をとトふや
仏法と踏る人のそるふ
紙の歌ゆとなたこるれ
彼の羽風とあつ海もの
時ふを四ふ三重と言こう
物をとふるるの孫やむ

白雲
之曲
瞳象
窓外
知雄
雙蒼
一掲
文明
きて

心

心をもおこるく物の戸を
高きしらの件と敲きて
ふ到や海の中ゆあるもく
物よ夏やく多度の山とと
花ふ物の物ちちく敲る雲し
くるゆ代ふもふるとう邪
摩羅と物をこ敲もこはまりや
浦世と金沢を活とう幸九
新海の言とつこ言時しるや

雷石
松軍
夷澤
記盤
東流
曲浦
河九
言色
人吉

猪の喰ふあと風のふく　文義
さらしなの秋を見すてゝ諏訪の月　兎格
提子酌くとちぎる旅路の衆　せんき
憔悴つくる人のうらみに小淋しく　駒午
花のそこふむむらさきの降　年と
風雅もちかし大日光寺　田竜
咲きたると韻ふみちかく　峰羽
須磨をもわかしのとおくって　玉帆
くもしねおもきとちるや霰書　鼓交

あら意ち櫓艘く池の堤やらく　月社
そつくしみるふみる神楼　麻笈
すゝきの露ははけ行よつう霜し　宝寿
ころもしと月のうちあわせ　柳岡
散しける花を嵐をよう振るゆ　雪香
あちきものか童こくろも　雲友
端居まくにしまお菓花合て　冬御
ふ多と森やぬ　そうなのく　朱滴
笠さの破ハなくてみるなり　梨竪

[illegible]　一右
[illegible]　渭原
[illegible]　鳴耕

右一順　下畧

文化丙寅初秋九月七日追善

捻香

[illegible]　梨冠
[illegible]　冬湖
[illegible]　小風
[illegible]　湖午
[illegible]　月社
[illegible]　巾太
[illegible]　睦原

碁の音ちまる宵ふかき雲の奥　霞畊
うら盆のあすおちこち声やかな　知堆
白つゆや秋七草の袖ぬれて　斜江
秋の影小山のさ田を吹みだれ　健斎
いく夏と来る行くて秋の蝉　双葉
かくてある袂につくや露の声　北平
何しらもまうしむ露の夕かな　習士
扇のあき尾花のそよぎ露ぬれて　ことぶ
白萩にむつ月せましころの声　芳外

文そう窓の七とせをいわひて

けふの露に花傾けし秋海棠　せんさ
さゝかにの糸てふつよし虫の乱　きそ
来る月に清ハむかしの一声かな　故交
きりのぼる月に歩きまきや人ごとも　澗丸
まの向ての跡もおつし菊のかを　蛸假
花みる秋その夕ぐれほどにいはれけり　東流
秋るの寂しさつけぬ花の中　其澤
旋蔭の秋来ぬやうに月見かな　渭原

文月とうつの花とあの葉とを
咲さくもとに花ちるあき花ぶ木槿
侍るとも花ちるとも一雲の月　洞月
涉雲氏中と萩うゑ萩うゑ　東仙
雲のうゑ秋よ秋よ打ちて　文義
葉のあるて一穴まを武　没可
あつ紀階ありあるを后の月　祝翁
文月あつ侍のあるとのあ　一如
ちゑ一葉子ゆ月ゑ雲の月　班中
　　宇孫

月葉の月ゑ命のかゆ刑　蛙会
ちゑ月ゑ月ゑ雲ゆ月ゑ　玉洞
月のゑ雲ゑの雲ゑ雲ゑ　六甲
なきゑの葉氏葉の二落色ゑ
ちゑゆ月ゑ月ゑ月ゑのゑ
ゑ月ゑ月ゑ月ゑ月ゑ月ゑ
　　文師
ゑ月ゑ命のゑ氏葉のゑ

七ゑ月ゑのゑゑゑゑ月ゑ法ゑのゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑ秋のゑゑゑゑゑゑ
ゑの雲月ゑゑゑゑ白月俳諧ゑ月ゑ月ゑ
　　月桂
あゑ秋ゑゑゑ月ゑゑ不雲ゑゑ　幽南

萩のさかりあとまで残りて
暁寒き新しと月の光の部　林唱
うつろひし花の盛りを惜しむ　賈月
むさぼりて酒のみすぎをのぶ　富亂
春雨はかなくなりすぎ川ちるを　白夜
ふかぶかや秋の雨ちる風ふく　白蘿
秋ふかし思ひつるやあかもよ　朱海
月の中に住まるの光すぐ　雪迫
恋つのりて寒き朱ちるを思ふ　百人一首

音聞くと拾ひうつぶ秋のうち　田路
花ちるの秋の時や珠数の華　慈楷
月見とあつや秋の七重花　雪香

、

夕扇を裂て落ちるわうきぶ　董菴
雪の月よりも思ひのあるまつへうち　房鶴
秋風や座ぶとんの百余日　樹樵

、

墨ぬるの雲ちるの芭蕉の部　竹軒　雄啄

老ては口伝失ふ事の哀とすゝめてみを見てあつる
却ていふかるへきて薬遅頼の事やと
きゝみわすれの白露とすゝめいときこ[illegible]
亀しく絶日のすゝあ回はのみお[illegible]
とみる枕とふかをつけ[illegible]
あきゝのあはすみ見みえて[illegible]
さゝやむとひとゆふつの[illegible]
年も[illegible]こきすぬ世話の[illegible]
こゝに仏堂を長すゝの[illegible]
こゝろなく[illegible]
をいのうて回[illegible]
同席と松[illegible]
かけと[illegible]
身のうへと[illegible]
つきぬ[illegible]

こゝくあきしと稲葉の[illegible]
[illegible]
九つのうつ[illegible]
られ庵むの侍る[illegible]
[illegible]
人くの[illegible]
[illegible]
是をとゆるの[illegible]
やつくし[illegible]七十七年[illegible]
なくもちつ[illegible]四十年[illegible]
思ひ入くれよふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛政庚申冬十月於松嶋風景亭

追悼

病中吟　　白雄士

[illegible]　　投雲
[illegible]　　人吉
[illegible]　　雁丁
[illegible]　　吸露
[illegible]　　五湖

[illegible]　　蕉文
[illegible]　　進夫
[illegible]　　雅堂
[illegible]　　吉
[illegible]　　雲
[illegible]　　露
[illegible]　　丁
[illegible]　　湖
[illegible]　　夫

なりぬ数のつもりもくるる　蕾
深き谷迷はせる花の下　吉
眠まして鶯の鳴きて春　雲

右一折下器

拈香

今の用捨とかいなく思ひ利　人吉

行くもかへるも月ぞ清の拈香　蕉父
祝ひくまけゆう時の月やくも　五朗
夢の花ゆる浮世ぞくもの雪　吸露
今の世に山ふかくなる雪　雁丁
香の名花祝ひくまを捨の名　雅雪
仏のいとくまかしく落ぬ　進九

○

拈香や名のとゝまる上白番佛　白斧

藪谷の里

十府菴所用

大芸員

雲形のうつはものの高もの	鳳凰
すくらもさかる花も恋もおく	苦拳
この陣は弱もおろそかなるし	双帆
泥ぬりの中は留の形し	詩歌
妙るもの月をたてる銘酒	百鮮
恵を陣せる消すもし火	

こつきとせとせる雪竜を解こまを　蜀明
さつ矢とは陸の陸うらうさ池　東豆
白鼓は風と鬼ちき紙ぬらう多　三鮮
思ふ宮川と柳かふ陸孔　才馬
小へ玉く心とあるて厚ものを　相宮
実と高に号と解るきやらき　書誠

右一頭　下器